

ヘリコバクターピロリ抗体について

大島胃腸科内科クリニック 院長
大島 俊彦 先生

今回はヘリコバクターピロリ抗体について、各テーマごとに説明したいと思います。

ヘリコバクターピロリって何？

人間の胃の中に幼少期に入り込み、成人になるまですみ着く悪い菌のことです。

検査方法

検診や人間ドックなどで主に採血、尿、便で抗体を調べます。直接、胃カメラで粘膜採取をして調べる方法もあります。抗体が陽性であればピロリ菌が胃の中にいるということです。

抗体陽性率

先進国の中で日本はかなり高い陽性率です。40歳以上で60～70%の人が陽性と言われて
います。

ピロリ菌が原因で起こる病気 胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎、リンパ腫、特
発性血小板減少性紫斑病、鉄欠乏性貧血、慢性じんましんなどがあります。

除菌方法

抗生物質によるピロリ菌の治療を「除菌」と言います。潰瘍の薬も含め、1週間の内服で
終了します。1次除菌と2次除菌があり、1次除菌成功率は70～80%。1次除菌で除菌でき
なかった人は2次除菌を行います。2次除菌の成功率は90%以上です。今年2月末に保険
適用の拡大があり、主に胃潰瘍、十二指腸潰瘍が保険適用でしたが、ピロリ菌感染による
慢性胃炎でも保険適用になりました。これにより、多くの患者さんが胃炎のみでも除菌で
きますので、詳しいことは主治医に相談してください。

ピロリ菌抗体陽性の方が全ていがんになるわけではありません。しかし、陰性の人に比
べると胃がん発生危険率は上がります。ぜひ胃がん検診を受けてください。血液検査でピ
ロリ菌の有無が分かりますので、医師に相談して除菌が必要とされた人は、治療をして胃
がんの予防をしてください。